

『猿・鹿・熊』の序

岸田國士

青空文庫

この本の著者と私は一面識があるといふだけで、それほど深い交渉はないのだけれども、かねがね地方における篤学篤行の士であることは聞き及んでいた。

たまたま今度、本書の出版にあたって、私に序を寄せよとの希望があり、私は、自分に与えられたこの役割を無下に辞退する気にならなかった。それは、本書のゲラ刷を一読してみても、類の少ない内容のものだといふ感じがしたばかりでなく、僻地における教師生活の実状を知る私として、この種の作業に身を入れる著者の精神を高く評価したためである。

野性動物の生態を観察、記録する興味と実益は、いまさら事新しく論ずるまでもない。本書の著者もおそらく先人の残した業績について、ひと通りの知識を備えているにちがひないが、それはそれとして、自分のおかれている自然環境のなかから、自分の眼で見、耳に聴く生き活きとした動物世界の習性の数々を、必ずしも純然たる科学者の探究方法によらず、むしろ、童心にもうったえ得る親しみ易い態度で、平明に語ろうとしている点が、私の注意をひいた。

猿、鹿、熊の三つの題を撰んだのも、信州という山国の、そのまた山奥の風土記の味いを添えつつ、最も子供たちに好奇心をも

たれている愛嬌ものを揃えたところに、著者のねらいがあるのであろう。

そして、そのねらいはたしかに成功している。

私もしばらく信州で暮らしたことがあり、現在も上州の山の中で一年の大半を過すのであるが、本書によつて教えられるところはもちろん多いし、さらに、これらの動物に対して、新たな興味が湧いて来た。しかし、実際に彼等の山中における生活を見る機会はなささうだから、せめて、この書物を読んでおいて、もう一度動物園へ行つてみるつもりである。きっと、檻の中の彼等は、私がなにを知っているかを気づかずに、すました顔でむしやむしやなにかを食っているであらう。その顔を見るのは、今から楽し

みである。

一九五一年十月

浅間山麓にて

岸田國士

青空文庫情報

底本：「岸田國士全集28」 岩波書店

1992（平成4）年6月17日発行

底本の親本：「猿・鹿・熊——日本にすむ野生動物の生活」さ・え・ら書房

1951（昭和26）年11月1日発行

初出：「猿・鹿・熊——日本にすむ野生動物の生活」さ・え・ら書房

1951（昭和26）年11月1日発行

※「猿・鹿・熊——日本にすむ野生動物の生活」は松山義雄著。

入力：門田裕志

校正：noriko saito

2011年2月19日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

『猿・鹿・熊』の序

岸田國士

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>